

多い年は**20億円**に及ぶ**除雪費用**。
 冬の「**市民の足**」である公共交通も
厳しい経営状況に。

小さく集約化された市街地を維持。
 すでに主な都市機能は中心地区に集積。
 ・半径2.5kmの市街地。**約50人/ha**と、10万人台の都市では高い人口密度
 ・都市機能誘導区域に**7割の都市機能**が集積 ※誘導施設の用途のもの

中心地区での機能集積構造の継続や、賑わいの維持のためには、「**まちを使い倒す**」
 徹底した**既存ストックの活用**が鍵に。

雪に強く交通が便利なエリアに居住を誘導。

居住誘導区域等に融雪施設を重点化。
 除雪もGPSで効率化。

- ・居住誘導区域・都市機能誘導区域は、融雪施設整備の重点地区に設定
- ・GPSの活用で、除雪車の動きを把握し、除雪作業を大幅に効率化



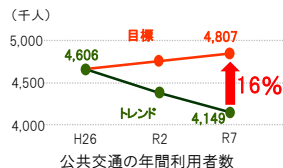
・中心地区では、地区計画により1階をセットバック。連続した「こみせ」(伝統的アーケード)を形成

除雪費用を**現在12億円から約1.7億円(R17)の削減**※

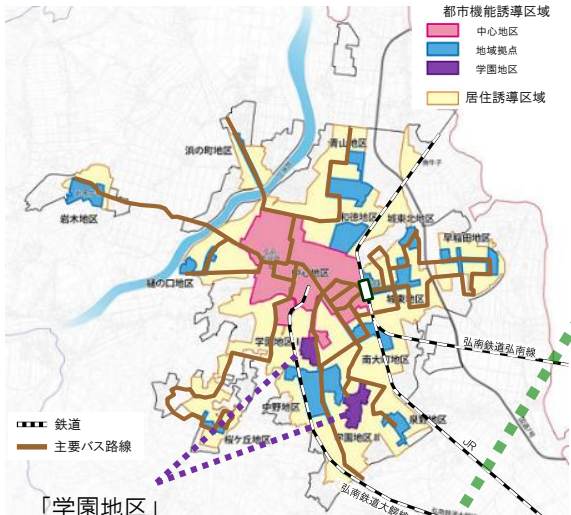
公共交通沿線に居住を誘導。「市民の足」の確保と、経営改善を同時に実現。

- ・居住誘導区域は、根幹的な公共交通の沿線に設定
- ・中心部を走る「100円バス」の黒字経営の強みを生かしつつ、地域公共交通再編実施計画で、さらに使いやすい公共交通網へ
- ・都市機能誘導区域「学園地区」では、高等教育機関を誘導

冬期に公共交通を利用する学生を**54%(H19)から66%(R7)に**



これらの取組により
 公共交通の年間収益を**1.3億円増益(R7・対トレンド)**※



「学園地区」
 高等教育機関を誘導。



冬期でも便利な居住誘導区域の人口を**7.5万人(R17・トレンド)から9.3万人(R17)へ25%の増加**

中心地区の都市機能をリノベーションで充実。

公的不動産 (PRE) を賢く活用。
 「日本ファシリティマネジメント大賞」も受賞。

- ・文化財である市庁舎は、建替え・移転でなく、現地でのリノベーションで長寿命化

通常の建替え(71.9億円)と比較して
17.4億円の削減※



・未公開の市有の登録有形文化財にスターボックスを誘導。**全国初**の試み

- ・再開発ビル「ヒロロ」には、子育て・交流・健康関連の公共施設を集約。経営は民間法人に任せ、**年500万人**の集客

未活用の赤レンガ倉庫。PFIリノベーションで美術館を誘導。

- ・PFI事業により、美術館を含む芸術文化施設を整備中(遊休施設から美術館へのPFIは、**全国初**)



⇒R2.4オープン予定
 通常の事業手法(29.7億円)と比較して**2.3億円の削減**

克雪も交通も。多様な活動を行う市民の力。

- ・社会福祉協議会等では、除雪、雪下ろしのボランティア派遣を実施
- ・市は、市民税の1%を市民活動への助成費に



弘前大学の学生中心のワークショップで、弘南鉄道大鰐線の利用促進策を検討・提案し、利用者増を実現



約1kmの土手町商店街の空き店舗は**約8%**
 (H20年度から**半減**)

若手中心のまちづくり会社によるリノベーションプロジェクト等も



— 中心地区の歩行者通行量を**1.9万人(R2・トレンド)から2.3万人(R2)へ** ※ —